

筑波のかえる 第34号



脳損傷友の会・いばらき
2017年 3月15日発行



脳損傷友の会・いばらき

〒300-2622

茨城県つくば市要1187-299

筑波記念病院リハビリテーション部内

TEL 080-8430-3365

FAX 029-877-4688

E-mail kojinouibaraki@yahoo.co.jp

<http://www.geocities.jp/nousonshouibaraki/index.html>

はじめに



弥生三月も半ばになり、日差しの明るさに春を感じます。身体の縮こまる季節が遠のいて行きますね。皆さまはお元気にお過ごしてましたか。

先日、独立行政法人自動車事故対策機構の記事が日経新聞に掲載されていました。機構は、自動車事故防止、被害者救済対策事業に取り組んでいて、高次脳機能障害の理解普及についても助成事業をしています。その助成で茨城県でも毎年リハビリ講習会を開き、理解啓発のために大きな援助を頂いています。

記事の内容は、機構が運営する全国4ヶ所の「療護センター」では、早期に受け入れた患者の方がリハビリによる改善傾向が大きかった。専門医の間でも急性期から慢性期まで一貫した治療・リハビリを訴える意見が強く、一貫症例病床の設置を決めた。17年度、大規模な総合病院を念頭に、同病床を委託する病院を公募することになった。この20年間で交通事故の死亡者数は半分以下に減った一方で、事故による重度障害者数は横ばい傾向にある。とのことでした。

早期のリハビリ効果、一貫性のある治療・リハビリの効果について、家族はすでに体験から実感しています。茨城県内においてもこの2点をポイントにした高次脳機能障害施策を実施してほしいと再度思いました。

春の人事異動のこの時期、担当頂く県のスタッフの移動がないことを切に望みます。他の仕事も同様でしょうが、高次脳機能障害の理解を深めることもかなり大変な事です。全国を高次脳機能障害の講演に回っているある先生が、ご謙遜もあると思いますが解ったと思えるのに10年かかり、講演できるようになったのは15年過ぎてからです。とおっしゃっていました。理解の蓄積があってこそ、質の高い取り組みができることを望みます。

今年度も沢山のの方々からのご支援をいただきながら事業を行ってきました。事例検討会改め「いばらき 大人と子どもの高次脳機能障害を考える会」も軌道にのりだしコツコツと理解と支援の輪が広がっています。

当会ホームページも賛助会員の方のご支援で作成が叶いました。

◀ <http://www.geocities.jp/nousonshouibaraki/> ▶

様々な場面でご協力頂きました皆様に、大いに感謝申し上げます。ありがとうございました。今後につきましてもどうぞよろしくお願い申し上げます。

(丹羽)

【 お知らせ 】

- ・29年度の総会について：開催日は、6月4日 です。
- ・29年度会費について：振り込みは、総会資料と一緒に振り込み用紙を送りますので、届いてからお振り込み下さい。

役員会から

平成28年度 脳損傷友の会・いばらき 事業予定

項目 月	会 員	役 員 会	そ の 他
3月	8日 神栖集会 10日 家族会交流室 17日 県北家族の集い 19日 県南集会(バス旅行)	21日 役員会	15日 会報紙発行
4月	5日 神栖集会 9日 県北集会 14日 家族会交流室	18日 役員会	
5月	10日 神栖集会 12日 県北集会 27日 コラーシュ教室	16日 役員会	19日 ファミリハ・カフェ
6月	4日 友の会総会 9日 家族会交流室 11日 県北集会 14日 神栖集会 24日 コラーシュ教室	20日 役員会	15日 会報紙発行

役員会報告

- 平成28年12月20日 議事 (1) ホームページについて
(2) リハ講習会・第3回事例検討会報告と感想
- 平成29年1月17日 議事 (1) 家族会交流室についてのあり方について
(2) 県リハとの連携について
- 平成29年2月21日 議事 (1) コラーシュ・俳句教室の次年度計画
(2) 会報紙34号、ホームページの見直し

家族会交流室からの報告

- 平成29年1月13日 相談者1名、家族会員2名
県リハ: 廣末氏、浅野氏
- 平成29年2月10日 相談者1名、家族会員2名、
県リハ: 廣末氏、山中氏
県障害福祉課: 村山副参事、中山課長



リハビリ講習会を継続して

脳外傷のリハビリ講習会は日本損害保険協会の助成を受け、茨城県リハビリ講習会実行委員会が平成 16 年度より実施しております。損保協会の助成事業の目的・趣旨としては、「自動車事故により脳外傷や脊髄損傷などの後遺障害を被った被害者の早期職場復帰・社会参加の実現のため、講習会の開催を通じて、被害者とその家族、支援者等への情報提供や、情報交換の場を提供することを目的として、自動車事故被害者対策の一環として自賠責運用益により運営される事業である」とされています。これに加え、茨城県リハビリ講習会実行委員会では「高次脳機能障害の啓発」ということを大きな目的としております。私個人としても、以前からこの障害を多くの方に知ってもらうことが高次脳機能障害者支援には欠かせないことであると考えております。この会の運営に携わり全国から多くの講師をお呼びし、また多くの茨城県内の支援者の皆様にご講演頂きました。この会がきっかけで現在に至るまで交流が続いている方もいらっしゃいます。上記の損保協会の目的・趣旨以上に県内の高次脳機能障害者支援の充実に繋がっていることに喜びを感じております。



さて、講習会の内容は、様々なテーマに沿って企画・運営をしてみられました。直近開催の平成 28 年度第 2 回開催では、横浜市総合リハビリテーションセンター、臨床心理士の山口加代子氏から家族支援に関して、社会福祉法人豊中きらら福祉会・工房「羅針盤」、施設長の山河正裕氏から生活支援に関して、それぞれご講演頂きました。両名のご講演は日々の支援につながる内容であったため、参加者数が少なかったことが残念でした。山口氏の講演では高次脳機能障害者を支援では当事者支援だけでなく、家族支援も重要であることはもちろんですが、家族「指導」も大切な支援であると感じました。家族も障害に関して理解を深めることは当事者の生活改善につながることを学びました。山河氏の施設では中途障害の方を対象としているようで、高次脳機能障害者専用のグループホームも運営されているとのことでした。当事者が希望を持ち生活をする中で、表情や考えが変わっていく様子が事例を通して伝わり、その支援力に大変感心しました。施設の立ち上げや、運営で近隣住民からの反対運動など大変苦労されながらも、当事者個人個人を支援していく山河氏のお話は今後の参考にさせて頂こうと思いました。

リハビリ講習会を継続して開催しておりますが、私個人としては脳損傷友の会いばらきの発足 10 周年を記念した内容となった平成 26 年度第 2 回の開催会が深く印象に残っております。この平成 26 年度第 2 回開催会ではそれまで以上に大きな反響があり、大変ご好評いただけたことを記憶しております。第一部では友の会の

会員様を中心に当事者、ご家族に受傷してからの経過をご発表頂き、支援者がコメントするという内容でした。中には涙しながらお話しされた発表者もいらっしゃいました。これまでを振り返る良いきっかけになったと表現してくれた発表者もいらっしゃいました。当事者、ご家族がお話しされることはおそらく初の試みであったと思います。会の名称も手伝ってか参加者は大多数がリハビリ職などの支援職で、毎回のアンケート結果からもリハビリ手法や生活支援、就労支援に関するテーマを希望される方が多く、26年度第2回開催会が参加者のニーズに合致するかどうか半信半疑でした。しかし、会を終えると参加者が大きな満足感を得られたことがすぐに伝わりました。アンケートの自由に記載できるコメント欄へ多くの記載があり、最新の技法や療法を知るよりも、当事者、ご家族の体験談などを聞くことが、なによりも良い支援に繋がるというような意見もありました。この障害の難しさは多様な障害像であり、また障害と（性格などに代表される）個性との境界線の曖昧さにあると思っております。その多様な人物像をみせる高次脳機能障害だからこそ、障害だけではなく個人個人をみることの大切さを改めて感じる事ができたのかもかもしれません。

外見からでは分かり辛く、理解され辛い。高次脳機能障害と言えればよく聞かれるこんな言葉。より多くの人を知ることによって解決される課題も多くあります。地域の中でほんの少しだけ手助けがあれば解決される問題も多くあります。外見からでは分かり辛いがために、手助けを躊躇されることもまた多くあります。

より多くの人に高次脳機能障害を知ってもらうために、リハビリ講習会実行委員会ではこれからもより良い企画・運営をしていきますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

参加者が少ない開催会もあります。皆さまのご参加を切に願っております。

社会福祉法人 木犀会 米澤 一郎



高次脳機能障害者支援従事者研修会

「目に見えにくい高次脳機能障害、社会復帰後の様々な問題」

講師：言語聴覚士 吉田真由美 氏

新しい年を迎えて早々の1月11日、牛久市中央生涯学習センターにおいて県立リハビリテーションセンターの事業である研修会が、当会との共同企画として開催されました。講演してくださいました吉田真由美先生には、昨年6月に当会事業の勉強会でご指導をいただき、経験豊富なそのお話は、是非もっと多くの方々に聞いて欲しいという事で、高次脳機能障害支援従事者研修会の講師として推薦させて頂きました。

先生は言語聴覚士として長らく水戸医療センターに勤務され、多くの患者である高次脳機能障害者を診てこられました。現在はご主人との事を思って常勤を退職されたそうですが、週2回水戸医療センター、週1回は志村大宮病院、そして時々学校で教鞭を取られたり、講演会に出演されたりと、前にもましてお忙しいご様子でした。そのようなお忙しい中でも吉田先生は、失語症の若者たちの患者会への支援を長年続けて来られています。

そのような自己紹介をしていただいたから、前半では高次脳機能についてのイメージを明確に説明してくださいました。そして、脳損傷者の心身の状態、リハセラピスト側に必要な要素、一般の方に知って覚えていただきたいことなど、私達家族の思い、悩みそして願いを、とても明快にお話してくださいました。

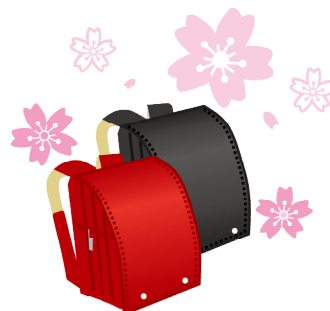
休憩を挟んだ後半では、受傷して数年経ってからでも、脳機能のリハビリによって回復した事例を幾例か紹介してくださいました。脳機能の回復によって、生活も改善したという実例が、とても素晴らしいと思いました。受傷して何年も経過したとしても回復をすべて諦めてしまうのではなく、もっとポジティブに考えたいですね。

今回の研修会には茨城県各地から60名近く of 支援従事者の方々が受講してくださいました。これからも高次脳機能障害の理解がもっともっと深まっていくことを期待しています。



家族会交流室について

会員や、一般の方たちからの高次脳機能障害に関する相談と、交流の場として家族会交流室を開いて、1月で4年が経過しました。昨年4月からは、県立リハビリテーションセンターから支援コーディネーターが毎回参加され、来室者の相談の対応に大きな力をいただいています。



相談の内容は、高次脳機能障害者の日常生活に関する諸問題から、医療に関すること、福祉厚生に関することなど、また家族ならではの問題等実に様々です。

私たち会員同士では、悩みやつらさを共有することや、自分たちの経験の中でのアドバイス位しかできませんが、専門職の方が一緒にいるということは、相談される方ばかりでなく、私たちにとっても大変心強く感じます。皆さんとても打ち解けていると談笑する中で、たくさんの悩みの一部分でも解決に向けて、道を探ることができ、帰られるときは大きな笑顔で来てよかったと話されるのが印象的です。事実その後も毎回のように来室されて「今日は特別相談はないんだけど・・・」と話される方もいて、この交流室が居心地の良いものになってきていると感じています。

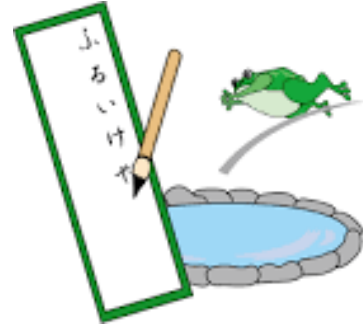
今年度は、2月10日交流室開室時点で、26名の来室者がありました。県外から転居された方、病院や施設から紹介された方など来られる経緯も様々です。もちろん会員の中で「ちょっと話を聞いてほしい」と来られる方もいます。ピアカウンセリングの部分もあり、専門的な部分はコーディネーターの方のアドバイスをいただきます。中には、リハビリ等の相談で、記念病院のリハビリのスタッフに来ていただいてアドバイスを受けたこともありました。

また、電話での相談も、高次脳機能障害者の家族ばかりではなく、施設の職員の方などからの対応の相談など数件ありました。地理的な問題等で、交流室まで行けないという方もいます。それぞれの事情に応じ、身近な相談先などを紹介したこともありました。

平成29年度も引き続き、県リハビリテーションセンターから支援コーディネーターを毎回派遣して下さるということです。悩み、相談ごとでなくても、おしゃべりだけでも大歓迎です。ぜひ一度参加されてはいかがでしょうか。

毎月第2金曜日 11：00～14：00までお待ちしております。

俳句教室に参加して



去る、1月8日(日)土浦市ふれあいセンターながみねに於いて俳句教室が開催されました。

当日は、みぞれが降るようなとても寒い日でしたが10名程が参加され、小原先生のご指導の下、俳句の奥深さや楽しさを学び、とても有意義な時間を過ごすことができました。

まず初めに、小原先生から「俳句アートセラピーを楽しむ」と題して、俳句の効能や基本のルール、コツなどを教えていただきました。

俳句アートセラピー、略して「はあと」(Hart)は「俳句」を使って心・脳・体・間柄を健康的に活性化するセラピー活動なのだそうです。

【 「はあと」セラピーで「五感王」になれる 】

※ 心—感性が豊かに ※ 脳—関心能力が向上 ※ 体—感じて動いて感動できる
※ 間柄—関係が豊かな仲間が増える

こんなに素晴らしい効果がある俳句、やらなきゃ損!?!?ですよ。

さて、いよいよ句会の始まりです。最初はレンタル俳句から始まりました。それは、他の人がすでに作った句(この日は17句)から自分が良いと思った句を選び投句します。そして自分が選んだ作品以外から気に入った句を、選ばれた数が多かった句が特選となりました。この日は、同じ作品が集中して選ばれ、同じような境遇の私たちが日々の暮らしの中で、どの様な思いで過ごしているのかが窺えるようでした。

(ちなみに「ともかくも 先ず微笑んで 今朝の春」や「嫌われて しまえば自由油虫」という句でした。

それから、先生が用意してくださった季語一覧を参考にして俳句を作ることになりました。初心者の中には難しく頭を捻りながらでしたが、小原先生の優しいご指導で(テレビ番組の怖い俳句の先生とは大違いです)、何とか一句つくることができました。その後、銘々の俳句を披露しましたが、ほのぼのとした句や情景が浮かんでくる句など、皆さんなかなかの出来栄でした。

帰宅してから、当事者の息子に俳句教室の感想を聞いたところ、「いつもは自分の口で思うように話せないけど、俳句は17文字の中に自分の気持ちを表せるから楽しい、また俳句教室に行きたい。」と言っておりました。今回、俳句教室に参加できなかった方、「五感王」になれるチャンスです。次回はぜひご参加ください。

最後になりましたが、厳しい寒さの中、貴重なお時間を割いてご指導くださいました小原先生に心より感謝申し上げます。

高次脳機能障害事例検討会

第3回高次脳機能障害事例検討会が12月7日に筑波大学付属病院会議室にて開催されました。10月開催時の高校2年生の事例についてその後の取り組みの報告がありました。学校行事で施設実習（自然薯クラブ）の体験をし、施設長の柳瀬氏からの報告と感想があり、普段とは違う本人の様子をご両親も熱心に耳を傾けていました。さらに今後の対策の工夫を皆で検討しました。参加者は様々な立場の方々20名でした。

第4回高次脳機能障害事例検討会が2月24日に筑波大学付属病院会議室にて開催されました。今回は、相談支援員の方からの検討事例があり、午後7時から9時すぎまで熱心な意見交換がされました。参加者は、同じく相談支援員の方々や臨床心理士、理学療法士、作業療法士、通所施設職員、県リハ支援コーディネーター、当会家族など計14名の参加でした。

この会の名称は、

「いばらき 大人と子どもの高次脳機能障害を考える会」になりました。高次脳機能障害の支援普及と連携構築を図っていこうという集まりで、今困っている人へ今できることを考えようとの趣旨で今後も開催していきます。関心のある方はどうぞご参加下さい。

ホームページ <https://kodomokoujinou.amebaownd.com/> を作成中です。

おしゃべり会

2月23日、筑波大学付属病院にて、同病院のリハビリに通うお母さん方の「おしゃべり会」に丹羽が参加してきました。高次脳機能障害と当会家族会についての話を交えて参加の皆さんと交流してきました。毎月1回の開催を重ねているということで、地域療育コーディネーターの役割を担う先がなく、医療や学校との連携に困っているなど、盛んに情報や意見の交換がされていました。



神栖の広場

2月の集会は、場所を変えて朝食をとりながらの語らいをしました。

久しぶりに参加された方もいて、当事者の通院先、その後の職場復帰、心配事など、話は尽きませんでした。

後遺症で今までの当人との違いに戸惑っている家族が「もしかしたら、高次脳機能障害では？」と気づき、社会福祉協議会への問い合わせや相談が少しずつ増えてきています。

新年度も、社会福祉協議会との交流を深めて、高次脳機能障害を認知し、理解していただけるように、当事者家族が少しでも気持ちが楽に生活できるように、情報発信をしていきたいと思っています。

お知らせ

当会員の石崎温子さんより、切手の寄付をいただきました。

42,368円分です

各種、お便りの発送等に、有効に使わせていただきます。ありがとうございました。

会員や賛助会員の方々のご協力により集まった「古切手」は、会を代表して土屋さん親子が、土浦市社会福祉協議会の善意銀行に届けました。「社協だより」の新年号に掲載されましたので、ご報告します。皆さま、ご協力ありがとうございました。これからも引き続き、ご協力をお願いいたします。

